平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	第二外国語2(ドイツ語)(German 2)			授業コード	A030451
担当教員名	津田 克巳			科目ナンバリングコード	A20316
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	第二外国語1(ドイツ語)の単位を修得していることが履修の前提です。				
受講心得	予習は必ずしてきてください。授業には教科書のほかにノートと独和辞典をいつも持参してください。				
教科書	橋本政義／橋本淑恵／Heike Pinnau『旅するドイツ語』(同学社)				
参考文献及び指定図書	根本道也『やさしい！ドイツ語の学習辞典』(同学社)、福本義憲『はじめてのドイツ語』(講談社現代新書)、在間進著『メモ式ドイツ語早わかり』(三修社)、中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ—改訂版—』(白水社)、中野久夫『ドイツ語が面白いほど身につく本』(中経出版)、関幸子『カタコトのドイツ語がらくらく話せる本』(同前)、岩間智子『しっかり学ぶドイツ語　文法と練習問題』(ベレ出版)、獨協大学ドイツ語教育研究会『はじめてのドイツ語＜改訂新版＞』(ナツメ社)、矢羽々崇『ドイツ語はじめの一歩まえ』(DHC)、植田健嗣『ドイツ　トラベル事典—ドイツ個人旅行ガイド—』(郁文堂)、渡辺二郎・ネスピタール愛『やさしいドイツ語の決まり文句』(南雲堂フェニックス)。				
関連科目	第二外国語1(ドイツ語)、英語1～4、基礎学力講座・国語、文章表現基礎講座。				

授業の目的	大学における「第二外国語」の一つとしてのドイツ語の学習を継続します。英語との類似点および相違点に気を配りながら、簡単なドイツ語文の読解や会話・作文ができるように指導します。
授業の概要	前期の「1」と同じように、教科書に基づいて演習を伴った講義を行います。発表を通じて授業への学生たちの積極的な参加を求めます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーションと復習 後期の学習についてのオリエンテーション。前期の復習。	予習：前期の学習事項のおさらい。復習：伝達事項。
第 2 週 ： Lektion 5: シュレスヴィヒ・ホルシュタイン／メクレンブルク・フォーアポンメルン1 本文：発音と意味。	予習：教科書の本文の発音と意味とを考えておく。
第 3 週 ： Lektion 5: シュレスヴィヒ・ホルシュタイン／メクレンブルク・フォーアポンメルン2 冠詞類・形容詞・疑問代名詞。	予習：教科書の文法説明を読んでおく。
第 4 週 ： Lektion 5: シュレスヴィヒ・ホルシュタイン／メクレンブルク・フォーアポンメルン3 生きたドイツ語にチャレンジ5：友だちのYukoの家族を紹介してみよう。	予習：教科書の練習問題を解いておく。
第 5 週 ： Lektion 6: ブランデンブルク・ベルリン(1) 本文：発音と意味。	予習：教科書の本文の発音と意味とを考えておく。
第 6 週 ： Lektion 6: ブランデンブルク・ベルリン(2) 話法の助動詞・比較・非人称動詞。	予習：教科書の文法説明を読んでおく。

第 7 週 ： Lektion 6: ブランデンブルク・ベルリン（3） 生きたドイツ語にチャレンジ6：話法の助動詞を用いて、場面にあった会話を完成させよう。	予習：教科書の練習問題を解いておく。
第 8 週 ： Lektion 7: ザクセン・アンハルト／ザクセン（1） 本文：発音と意味。	予習：教科書の本文の発音と意味とを考えておく。
第 9 週 ： Lektion 7: ザクセン・アンハルト／ザクセン（2） 未来・副文・zu不定詞。	予習：教科書の文法説明を読んでおく。
第10週： Lektion 7: ザクセン・アンハルト／ザクセン（3） 生きたドイツ語にチャレンジ7：副文やzu不定詞を用いて、「ドイツに行きたい！」という気持ちをドイツ語で伝えてみよう。	予習：教科書の練習問題を解いておく。
第11週： Lektion 8: チューリンゲン（1） 本文：発音と意味。	予習：教科書の本文の発音と意味とを考えておく。
第12週： Lektion 8: チューリンゲン（2） 動詞の三基本形・過去人称変化・現在完了。	予習：教科書の文法説明を読んでおく。
第13週： Lektion 8: チューリンゲン（3） 生きたドイツ語にチャレンジ8：Mozartのエピソードをドイツ語で語ってみよう。	予習：教科書の練習問題を解いておく。
第14週： おさらい（1） 今までに学んで来た事柄を復習し、必要に応じて追加説明を行い、より深い理解が得られるようにします。	予習：今までの学習を振り返り、質問事項がないか確認。
第15週： おさらい（2） 前週の続きです。また、時間の許す限り、受講学生の一人ひとりに教科書のドイツ語の文を読んでもらい、簡単な会話を試みます。	予習：前週に同じ。
第16週： 期末試験 第2回から第15回までの授業内容に関する試験を行います。	予習：前週までの学習事項を確認しておく。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	英語圏の他にドイツ語圏の歴史や文化にも目を向けるようになること。
【知識・理解】	ドイツ語やドイツ語を話す国や地域に関して一般常識を持つこと。
【技能・表現・コミュニケーション】	ドイツ語で簡単な文を読み解き、簡単な作文や会話を行うことができるようになること。
【思考・判断・創造】	ドイツ語と英語と日本語とでは世界が違ったふうに見えるのに気づくこと。

○成績評価基準（合計100点）	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			**45点**
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**45点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**5点**		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**5点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	